七十世においい 幸地本 十二五 3.5.5 かけいした 米二七 ₹ 存 先 つ 設 た L ટ た Ø 思 窓 77. • ゥ 逫 0 外 辫 遵 交 M 巡 . 際 155

礩

問

題

K

於

て

[1]

觉

Ø

K

瑖

B

大

营

左

7

り

ď.

あ

15

全 臣保 即随 明に 架 関 す る 当 面 0 諧 岡 題 K つ Va T

大

三 Ę 乜 = 六 米 保

L て は • 田 内 問 題 ځ L τ 1 文 歡 • 勞 Cy 間 題 孪 \$

0 鹄 果 7 5 見 礼 ば * 自 民 冤 0 政 缭 K 对 寸 る 民

Ø 支 拧 IC 変 b XIS 泣 Ż っ た ح と VI. 则 5 办 て あ る O 即 3 日 米 115 Ø 꿄 全

保 印 間 鬥 は 1 問 Ø K 0 バ I ŀ ナ 1 V ッ プ Ø 図 係 Ø 蹊 7 为 つ て、

B 浓丰 Ø 防 衞 は H 米 共 同 安 全 保 陸 体 刨 K 依 つ て 之 空 76 保 雪 ふ と 굿 9

基 本 政 策 は 田 民 VC I b 再 闷 13 る n た と n 3 ۲ と χ'n 出 来 る 0 7 あ

る 0 称 L 乍 5 此 0 分 野 M 於 け る H 米 係 K は 现 災 VC. 5 (2) 問 则 N/

あ る。 此 뺭 G) 13 は 夺 後 Ø 抸 保 媭 眞 会 Ø 巡 當 と ģ 胡 遊 す る 所 て

る 7)2 • 曫 M Ė 分 Ø Ľġ 米 M 先 立 つ 7 賞 大 使 と Ø 間 K 充 分 意 見 Ť. 交

題 Ø IJ, ヴ 3. 1 を 溢 み 度 Va と 思 ゥ

L

て

链

<

ح

ځ

20.5

必

變

と

思

ゥ

0

で

3

先

づ

日

本

卿

Ż

5

見

た

当

面

0

醅

問

腴

為

*

跷 安 全 垛 童 問 題 IC 図 L 影 型 は =

昨

牟

六

月

Ø

岸

総

珽

芴

米

K

先

立

つ

念

埋

と

貲

大

健

と

Ø

予

億

的

숐

酸

Ø

(1) 安 保 粂 約 Ĕ 爭 凝 0 Z 化 K L て 改 正 す べ 宫 点 ح L τ

/. 梷 約 MC Ž, 吉 庭 留 堂 る 米 軍 Ø 配 船 及 使 用 は 鳳 則 ٤ L て 日 米

相

互 0 合 蒧 VC I つ T 衍 わ 扎 る べ 吉 ح ٤

.2. 籴 約 ٤ 国 埊 濏 ij. Ø 囚 係 定 明 6 办 IC す ~ B ۲ ح

3. 粂 約 VC 期 驱 ř 付 す ~ à ۲ չ

Ø Ξ 点 KC 盲 及 2 n る 논 共 VC

(u)

日

本

は

題

趽

会

諡

て

决

定

T

n

る

~

舊

長

期

防

简

力

够

伽

計

圓

K

従

Va

的

心

理

極

カ

防. 衛 力 漸 增 Ø 努 力 查 旕 け る Ż * 自 衢 除 Ø 育 成 並 ZF VC 政 治

的 事 懵 Ŕ 考 壓 L • 米 伽 は 险 上 篡 國 部 隊 0 全 面 的 撽 退 1 含 み

米 單 を 削 滅 女 る ૮ 共 VC米 郞 尴 設 Ø 再 檢 討 を 為 办 る 샿 要 雪 る

旨 朰 述 べ 5 n た 0 而 L て 此 等 Ø 点 は 日 米 会 談 Ø 続 充 分 檢 討 世 5 れ

主 と L τ 前 記 41 Ø 関 係 K 於 て 日 米 安 保 委 員 会 1/1 谿 足 L 叉 (12) Ø 分

町 K 於 T H 地 上 嶷 题 恕 鉂 Ø 全 面 的 撤 退 を 含 t 米 單 0 大 酮 削 液 ŧ 見

た 次 第 7 あ る 0

二 係 KC 斯 は < 相 L 当 τ Ø 遺 進 去 展 Z). 年 見 Ø 6 閩 n K た 於 て、 Äχ 3 此 安 Ø 全 础 採 * 险 阼 0 年 分 秋 野 γ VC 避 於 źź 付 大 る 壁 B 弾 *

琢

関

平 չ 人 I 简 旦 VC 依 つ て 軍 郡 稱 学 技 循 Ø 遊 歩 を 誇 示 L τ 以 事力に愛

伽 は 方 W 於 τ 自 田 啣 営 Ø 抑 制 力 0 中 心 た る 米 闰 Ø 遛

怒 は 無 Ť 意 生 味 Ł て L あ め る る と 椒 • 0 観 又 同 念 皍 춘 窟 VC 成 局 す 迦 ឈ る 様 争 宜 Ť 伝 否 Ť 定 L _ 段 τ ટ 中 鍅 途 半 化 L 端 た な

< L τ 日 米 関 係 K 說 T 見 る Ŕ BÛ 配 Ø 語 孶 僧 と 併 관 此 Ø

٦

際

檢

뭠

0

斯

遛

僩

を 要 す べ 首 磴 Å, Ø 問 题 χį 生 起 L τ Va る と 思 ゥ ٥

あ る と 思 9 0 呵

先

づ

日

米

共

同

安

金

保

暐

体

制

ż

沱

奥

寸

る

見

地

ľ

þ

次

0

如

宫

閰

頭

Ď

(1) 現 在 Ì 我 (H) 団 歐 VC と 自 在 衛 日 米 脉 ح 軍 在 Ø 日 脳 米 力 軍 Ø 盐 χ'n 並 本 存 Бij L 係 て K V つ る Va 275 T

٦

行

政

協

定

鎔

_ + 四 条 K * 阿 政 府 は • 非 常 ij. 態 X,7 生 超 L た 楊 合 _ 日 本 区 域

Ø 访 衡 Ø た め 必 要 な 共 闰 譜 鹾 赱 軟 る; 9 た 约 直 当 K 鮥 試 _ す る

봔 と 雪 云 9 自 規 礩 定 家 XX ᅩ あ 在 る 日 Ø めて、 米 Ħ 安 Ø 保 鰛 力 杂 約 Ø 遊 は 米 本 缸 阅 係 Ø 日 MC 本 付 防 问 衡 政 安 府 葯 圓 を VC

る 約東 現 状 は O 聚 存 付 L 准 け と . M 0 L 此 て 0 点 阿 沯 VC 阅 0 協 L 力 自 Ø 赵 衞 本 除 网 χ'n. 保 在 K 日 付 氷 * 琿. 安 ٤ 保 並

枭

約

存

す

何

等

规

定

自 体 は 其 Ø 盤 と て 两 政 府 旧 K 何 等 Ż 0 合 斌 ż ***** L る

又為すべきや否やの問題が存する。

(在日米軍配備の協議について)

(u)

在 日 米 卸 Ø 配 檐 乃 至 撤 退 計 は 安 保 委 貝 会 MC 於 τ 協 台 75

れ T 来 7 V る A)? * 4 日 0 與 惛 は 米 軍 Ø 撤 退 X) 愈 逃 K 進 め 6 11

特 VC 空 簠 関 係 VC 於 τ It 我 方 Ø 自 循 凉 育 成 Z)A 追 付 办 3 L て 防 做 K ¥

次 VC 現 存 Ø 安 保 粂 約 体 瓵 IC 7 V て 餌 整 XV. 逕 主 L V۵ と 思 わ n る 問 空 白 奎 生 ず る 形 鹨 K る る 0 此 Ø 怼 睐 MC 於 て 自 黨 歐 Ł 在 日 米 饵 Ø

0 協 語 を 爽 震 的 \mathcal{C} 銊 化 L て 行 < 必 要 žŠ あ る と 思 わ 扎 る

(軍事援助について)

M

吨

省

Ø)

力

を

綜

合

L

て

找

园

0

防

循

弘

猫

保

L

得

る

橡

*

在

日

米

距

配

(iii

Q

自 简 騤 装 儲 Ø 質 的 盤 化 Ø 分 K は 4 後 共 米 T b Ø Ħ 4 提

助

IC 依 存 す る 必 要 Ď あ る Q #E Ø 点 $V\subset$ り Va て は • 日 る 本 個 必 聚 VC Y) 於 τ 岛 る જે žč. 秘

密 他 保 固 * 遊 揩 餀 K Þ 於 近 て 代 易 我 兵 뫎 方 受 Ø 入 計 方 回 近 針 成 VC 玄 つ 可 V 7 能 措 な 置 5 す L 的 る 1.0 7 4 後 共

我 方 \mathcal{C} 抆 す る 籅 负 授 助 KC 付 好 蒧 的 麒 度 を 以 て 歰 ま n る ح と 期

得する。

否 地 Ž. 然 題 的 K 供 相 相 方 P を 当 考 与 互 耳 Ø 授 没 凹 ζţ 点 て 助 4)2 助 Ø 亿 (3)方 見 陷 砦 後 め 0 **É**^ 方 周 T 形 太 度 と 協 ح 大 5 0 V Ç て カ 犷 L れ L 此 る Ø 粂 ٣ あ て を行 三 る H 約 Ø は ح ح 本 間 左 Ø 約 Ø 題 (1) 周 VC て 京 題 は、 Z չ あ す つ (1)Ø み る ŏ 漲 た 当 閩 镇 Äγ ح 法 る 闽 • ٤ **5**)? 蒕 0 題 Ø * 잸 之 KC 問 Ž 範 究 は 依 豆 之 題 め l 弦 B つ 内 VC る 要 本 て つ þ Ø 防 て す 充 6 歩 分 衛 る V٦ VC 於 と 協 は 進 所 め で τ 語 カ B 米 ħ め あ る は る 政 10 (2)治 基 個 当 *

在 日 米 篮 H Ø H 本 VC. 辿 け 墟 る 外 邑 餀 用 信 及 Ø U 围 圆 使

41

行 わ ક 風 り れ 阁 在 D B 'n る O 在 謚 米 世 結 す 日 車 ·L る 果 米 也 Ø る ح 3 函 Ø ح と 本 日 使 ٤ VC 本 用 於 と な す ŽĮŽ つ 特 る て 其 IC VC Ç۵ 0 B 戼 る 本 れ 办 怼 基 ば 其 地 VC 用 圣 日 0 反 辺 本 日 は 点 政 本 H L 米 2 地 府 7 雪 ځ 城 M 戦 る 相 外 米 红 談 使 争 簠 用 行 た 0 L vc 可 VC 쉾 能 II VC 抱 行 邸 τ な 米 談 Š る ٤ 込 吨 ኢትኔ 京 政 云 5 9 は 府 11 94 櫘 る 間 ۲ 4 江 Ø と 窗 意 れ ح 床 た 儲 邸 た Ż 形 る、 項 5 M と て な す ح は つ 云 る た て < ح ŋ Va • 越 ح る źĊ 共 脇 Z), 闻 * Λy. 室 米 主 防 あ L 衛 寬 る 0 Ø S Ø Ł __ 行 此 考 證 則 Ø 点 VC ^ 的 5 見 傠 付 れ 地 时 昨 る I Ť 年 獸 b Ø 日 す 会

四 (存兵器の間

U

Ÿ

睽

提

我

图 遮 と 深 $t \ni$ 行 ø M 队 兵 K ソ الارا Lu Lu 由 型 Ø L 甦 动 τ b Ø 盐 を 争 は 条 * 地 件 加 II 7 付 間 以 * 題 上 單 ___ 年 方 其 70. 9) 的 秋 潮 如 Ø 校 铰 Ø < Ė F 雵 共 ソ 世 缺 火 界 踵 連 中 15 仅 ĖIJ Ø 大 些 止 谘 江 帽 芦 脑 7 τ VC 明 0 弹 来 加 部 非 道 礖 た 校 ^ Ø 8 人 ح ح 武 I 裝 ٢ չ 在 褊 B B Z, 地 米 凰 B あ 酷 T. 以 設 つ つ τ 檄 置 た 来 Ö 社 追 9 _

党

其

O

他

Q)

E

. 淵

勞

カ

X)?

其

Ø

攻

加之

Ø

矛

岩

在

核

兵

13

Faj

hin!

K

绿

中

L

τ

会

0

居 器 汝 25 依 右 3 器 如 τ Y). 榜 n b 11: る は 核 Ø È L B て 本 华 了 安 込 る 愛 非 揥 従 保 閆 S 范 武 0 鐐 1:1 込 件 る 7 題 七 A)7 銮 で Ť 攻 数 IC 奖 τ 興 VC 存 認 勢 決 鑑 関 KI 僧 此 会 関 認 72 谂 L K め す 7 7 L Ø 案 Ø 左 対 介 る V 問 症 協 て あ 共 Ž. 춘. Va Ļ٦ L 3 日 る 題 篮 提 と 7 船 な 回 米 O VC 3 云 邕 宜 4 χ'n. 5 は 7 ば n 回 2 は 9 言 绵 す 校 牿 る 政 71 方 る 坳 兵 何 政 查 府 ば K 故 針 府 申 と KC 諨 ح 詉 共 を 之 と 間 前 入 额 を は 国 壓 搭 企 と K K 返 明 n で 3 会 ĘŞ 取 左 如 自 7 L 5 付 何 KC 総 L あ 獅 来 つ Ž). τ る 更 T け 於 遊 な 歐 VC る 我 る T 挺 75 VA 所 站 M L 江 En 国 る T 模 は VA X)Z W 箉 Ŋ 武 2 会 11 χ'_{λ} χ_{j} , 米 あ • 野 土 XIX 遊 7 L 駁 又 若 存 觉 灯 币 終 VC. た 7 R , 更 ず 0 EX 入 亭 L Ť は N 自 7 谱 叉 超 文 る P U 民 る L 蕸 校 ح 刺 核 上 党 K Ø Ŋ, 7 兵 米 K 嫏 は、 兵 於 ટ VC.

Ø

搢 B 未 置 [4] 논 と 係 W. る 鑑 襟 な み ح 米 と 1 は 112 九 日 本 V ٤ Ø 10 遼 酒 信 す を る 採 越 视 답 L 457 日 以 本 て **(/**) 応 蒎 in in 딦 L C 反 又 办 る

榕

非 武 芸 決 1.3 K L て は 其 Ø 必 要 な L Ł L て 之 查 担 否 L T 来 た \Diamond

は 御 涨 知 Ø 逛 b で 沟 る Q

Œ 方 口 K 柊 兵 꿃 と 云 つ ζ ġ 方 K 於 7 水 1 弾 775 7 iğ

す

おと 0 14 共 Q) 伛 IC 他 É 曲 万 小 卿 営 划 Ø 0 访 踯 徽 袻 峧 ÉĪ 它 略 兵 Y/s 核 12. 14.4 兵 Ø 器 Ьď 58 Ø ⑫ Y) 用 迤 ん を 可 τ 趋 提 չ り L 7 N S A る T

۲ ٤, H 自 分 B I < B B 越 L T 店 る O 此 Ø 点 K L て 灯 Ė 分 は 全 設

蹈 硘 χ'n 何 4 Ż Ø. 形 で 具 体 化 す る ζ と ŧ 切 K 右 经 -<u>}</u>-Z 6 O T あ

0 可 卽 M 戮 玉 Ø 飕 1 は 之 を Ľĭ H L た け れ ば 江 5 3 • 今 读 社 K

皷

化

す

る

Ł

予

想

4

n

る

共

应

1

0

心

埋

ľ,

IC

対

L

`

45

K

٤

L

τ

易

伽

る

的

年

を

口

脳

子

る

VC

在 日

米

軍

()

뤄

少

Ø

結

果

自

衛

家

0

防

徽

闅

任

VC

る

0

等

甘

る 所 Ď な け れ ば 左 5 た M と 恩 90

日 本 K 网 L て は 米 国 政 府 要 路 VC 於 て B 現 在 日 本 K H 罄

明 兵 dx 器 Ø L 了 て は 解 鶋 持 る 込 を ح 重 遬 չ n H 懺 で τ ₹ 为 V ح る 左 と Ż). Va źż L 5 3 全 日 殷 此 本 的 Ø 悶 玄 IC 海 棭 題 娤 τ VC 個 得 関 す 飸 て る 計 药 啊 圓 る E と 府 易 考 間 な VC V չ 何

対 VC カ 左 足 す 資 関 獹 Ą, ろ す 儒 访 腰 Ċ る を בֿלע 简 决 更 鸴 ŀζ あ X) VC つ 全 焰 す た 问 上 殼 追 と る 받 的 반 思 日 見 り わ 米 L 岛 ٤ 尴 的 n X). ŏ 力 Ø D 日 军技 5 W 本 告 以 係 B 瞂 上 Ø 定 申 上 julij julij Ø 含 上 K V 述 Ė 阴 ~ 7 0 礷 居 給 取 た る b ح 牏 Ø V ٤ 愈 自 て II, じ 又 尚 由 D 烎 単分 ž 溢 保 er e 4 讨 委 後 す 全 員 大 体 簩 **(**) 会 偼 日 0 に 桕 Ø 防 米 舜

幽

衛

当

カ

n

て

Ġ

建

設

的

72

灵

梤

て

Ż

亡

被

討

L

て

Sec.

Ė

废

Va

0

於

秘密指定解除CONFIDENTIAL情報公開至

4. Following aspects may be considered with a view to strengthening the existing joint security system.

a. Currently in Japan, there exist side by side the Self Defense Forces and the United States Forces, Japan. Although the Administrative Agreement provides in Article XXIV that in the event of hostilities or imminently threatened hostilities, the two Governments "shall immediately consult together with a view to taking necessary joint measures for the defense of the Japan area, the Security Treaty itself does not stipulate any obligation on the part of the United States Forces to defend Japan, nor is there any explicit understanding between the two Governments as to the basic relations of cooperation as between the Self Defense Forces and the United States Forces, Japan. In this respect, there is a question as to whether the two Governments should agree, within the framework of the existing Security Treaty; on the basic principles of cooperation between the two forces.

b. The disposition, or the planning on the withdrawal, of the United States Forces, Japan has been subject to consultation at the Japanese-American Security Committee. However, the withdrawal of the United States Forces has been expedited considerably, and the possibility exists that the build-up of the Self Defense Forces may not be able to catch up with it, especially in the field of air-defense. The consultation on the disposition of the United States Forces should therefore be strengthened with a view to securing the defense of the Japan area by the combined capabilities of the Self Defense Forces and the United States Forces.

c. Japan has to continue to depend on the military assistance of the United States for the modernization and reinforcement of the equipment of the Self Defense Forces. In this respect the Japanese Government has to take steps in respect to the measures for the protection of security as well as the acceptance of modern weapons. On the other hand, it is hoped that the United States should continue to give favourable consideration for military assistance to Japan so that the Japanese defense build-up program could be successfully carried on.

- 5. There are certain aspects of the existing security system to which some adjustment is deemed desirable. The problem of the adjustment may lead us to the more basic question of rewriting the existing treaty into a treaty of mutual assistance. So far as a mutual assistance type of treaty is concerned, a question has been whether the United States could enter into one with Japan if Japan comit herself to (1) the mutual assistance in defense activities within the Constructional limitations, (2) providing facilities within Japan, and (3) cooperation and mutual assistance in logistical support. At the same time, a mutual assistance type of treaty with the United States having far-reaching political implications in Japan, this question has to be studied very carefully. Meanwhile, the following questions present themselves within the framework of the existing treaty.
 - a. The disposition and use in Japan of the United States Forces are subject to consultation between the two Governments as far as practicable; However, the United States may use her Forces and Japan without informing or consulting Japan. Accordingly, it is agreed that unless their use outside

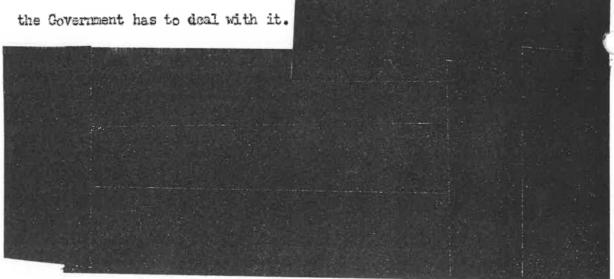
might be entangled in a war, without her knowledge or against her will, as a result of the use by the United States outside the Japan area of her forces stationed in Japan. It is deemed desirable, therefore, to agree between the two Governments that the use of the United States Forces, also class outside the Japan area should be subject to consultation between the two Government, not to place limitation on the activities of the United States Forces, but in the light of the general interest of joint defense.

b. The controversy in Japan over nuclear weapons has been intensified since last fall when the USSR announced her success in ICBM and artificial satellite. Communist countries have since then proposed the establishment of denuclearized zones, and the USSR has announced unilateral but conditional suspension of nuclear bomb test. Furthermore, as controversies over the military bases of the United States forces have gradually subsided, the left wing opposition has been concentrating its attack on the issue of nuclear weapons. In the preceding sessions of the Diet, therefore, the Socialists insisted on demanding, as for instance, what understanding

existed between the two Governments concerning the United States Forces bringing nuclear weapons into Japan; was not this question subject to consultation at the Security Committee; was there no written agreement; why was not one made; were not vessels of the Seventh Fleet or aircraft from Okinawa entering into Japan carrying nuclear weapons? The Socialist Party 1-101 submitted to the Diet a resolution on denuclearization, and proposed to the Liberal Democratic Farty a joint declaration in the course of the general election on this question. Against such opposition, the Government has clarified its policy not to arm the Self Defense Forces with nuclear weapons nor to permit any foreign country to bring them into Japan, and emphasized that the United States would not take action in disregard of the intention of Japan. The Government has also turned down the proposal of denucleariza tion on the ground that it was not necessary.

Speaking of nuclear weapons, I am aware that while the thermonuclear war-head has been developed on the one hand, small-sized tactical
nuclear weapons have also been developed on the other. I am also aware
that the defense strategy of the free world including NATO presupposes
the use of nuclear weapons. I earnestly hope in this respect that a

general agreement on disamment should be reached. At the same time, the Government cannot disregard public opinion. Should the Japanese public entertain some genuine apprehension in the nuclear weapons question,



Furthermore, the United States authorities have stated that they have no current plans of arming Japan with nuclear weapons, or bringing them into Japan. In the circumstances, it is deemed appropriate that some understanding will be agreed upon between the two Governments on this question.